

# AIDS UPDATE

No.8 1999.4.7

広島大学医学部附属病院

エイズ医療対策室

内線2941（輸血部副部長室）

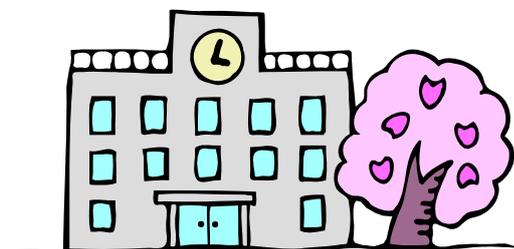
Internet:www.aids-chushi.or.jp

## 最新 厚生省エイズ動向委員会の報告

◆ 厚生省のエイズ動向委員会では、各自治体から報告されたHIV感染者・エイズ発病者の数を集計し、分析して国民に広報しています。平成11年の1月と2月分、そして平成10年1月から12月までの1年分が合わせて報告されました。

◆ 平成10年の年報総括をご覧ください。1991年のピークは東南アジア出身の女性が集中的に検査されたため、一時的な増加が見られました。その後、(彼女たちは日本でHIV陽性とわかって、メリットがないためか)検査件数が減ったようです。1991年を除くと、新規登録者数は前年度を上回る直線的な増加傾向を示しています。その内容の大半が日本国籍の男性の性感染であることがわかります。居住地別では関東甲信越で74.6%を占めています。

◆ 献血者におけるHIV抗体陽性者数は、10万件あたり0.912人と過去最高になりました。やはり日本は新規感染者数を減少させることができているという証拠ではないでしょうか。背景にはこの数倍の感染者がいると推定されます。



## ご存じですか？ 市販の抗HIV薬は何種類？

◆ あと目立たないことですが、感染者は増加しながら、エイズ発病者数が減少に転じた点が注目されます。これは感染していても発病させない治療の進歩とみてとることができます。医療機関では、いつ感染者が来ても慌てないよう準備が必要です。また医師は患者さんにHIV抗体検査を勧めることができることが大切です。

◆ 平成10年12月に日本で初めての非核酸系逆転写酵素阻害剤である、ビラミューン(一般名ネビラピン)が発売され、合計10種類になりました。本院では治験施設に加わっていることもあり、緊急購入がはかられ、全て使用可能となっています。感染者が発病しなくなり、発病者も死亡はおろか入院が必要な状態が激減しました。逆に治療は非常に複雑になってきました。HIV感染症・エイズは専門医療の時代です。



## <ご意見募集>

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。ご意見やご希望がありましたら輸血部までお寄せ下さい。

[TAKATA, OE] takata@aid-chushi.or.jp